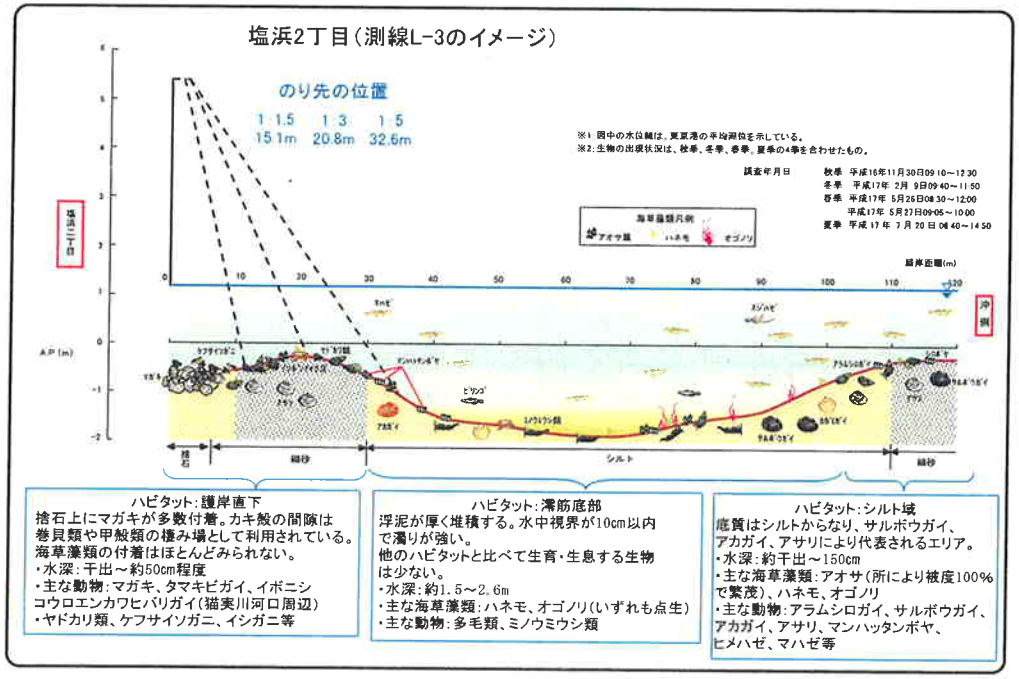

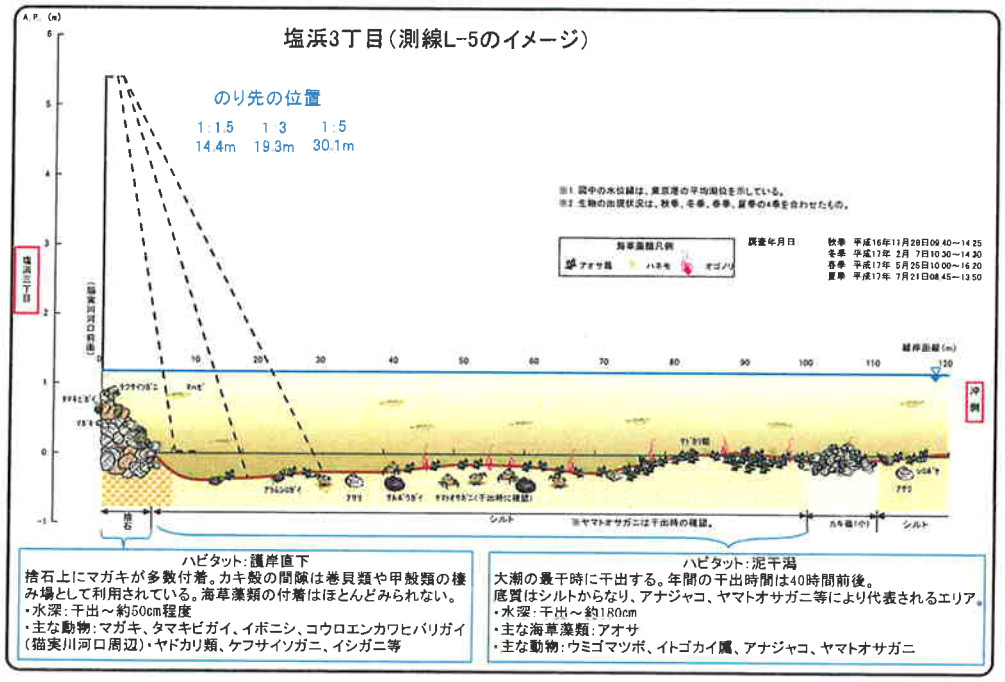

図-2　　護岸改修による直接的な影響範囲

(3) 改修後の護岸におけるハビタットの復元予測

護岸の改修により、現在の直立護岸周辺に形成されている「ハビタット：護岸直下」は一旦消滅するが、対象海岸域には、同様な潮間帯ハビタットが多数分布（塩浜 1 丁目、浦安市入船町周辺の護岸等）すること、又、施工が段階的に行われることなどから、改修後の護岸を基盤として同様の潮間帯生物を主体とするハビタットが復元されることが予測される。

現況の直立護岸周辺に成立しているハビタットの拡大図を図-3 に示す。

また、図-4 には、改修後の護岸に成立が予測されるハビタットのイメージ図を、護岸の勾配別に示す。

当該ハビタットは潮間帯生物により構成されているため、護岸の勾配が緩やかであれば、潮間帯の延長が長くなり、潮間帯生物の生息空間は増加することになる。

石積と被覆ブロックを比較した場合は、石積は間隙に富むため、被覆ブロックに比べて表面積が大きくなり、潮間帯生物の生息空間は増大する。この他に石積の場合、日の当たる部分と日陰の部分が出来るため、それぞれの場所を好む生物が着生することが期待できる。

図-3　現況の護岸直下のハビタット